

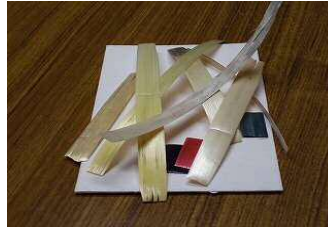
## かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきしゆくむぎわらざいく
1-32	<b>川崎宿麦わら細工</b>

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北～川崎駅前南	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区内
問い合わせ	麦人(むぎんど)の会 代表 池田氏
TEL	044-333-0656
FAX	044-333-0656
E-mail	harumi87@cmail.plala.or.jp
URL	—
交通	—



麦わら細工の絵葉書セット



川崎宿麦わら細工で作られた絵葉書



麦人の会の活動紹介の様子



「川崎宿麦わら細工」体験の様子

写真提供: 麦人の会

### 基礎情報

- 麦わら細工は、江戸時代の享保年間（1716～36年）に大森の大林寺住職が村人に教えたのがはじまりと言われている。その後、大森名物として「東海道中膝栗毛」に取り上げられるなど土産物として定着し、次第に川崎にも広まった。
- 麦わら細工には、木箱などに麦わらで絵や模様を描く「張り細工」と、麦わらを編んで動物などを作る「編み細工」の二つの技法がある。
- 麦わら細工は明治時代に入ったあとも作られ続けたが、第二次大戦の頃に途絶えてしまった。

### 由来・エピソード

- 川崎では、市民活動団体「麦人（むぎんど）の会」が発足し、同会によって麦わら細工の技術を伝える取り組みが行われている。
- 麦人の会は、“東海道らしい”・“昔を偲ぶ”「お土産」として、麦わら細工を自分で作る「絵葉書セット」を考案した。その具体化にあたっては、大田区郷土博物館の学芸員らの協力があったという。
- 「大森麦わら細工」は、鮮やかに着色されているのに対し、麦人の会によって現代に蘇った「川崎宿麦わら細工」は、麦を着色せず、美しい金箔のような輝きを大切にしている。

### 補足・その他

- 麦人の会が制作している「川崎宿麦わら細工」絵葉書セットの材料は、宮前区水沢にある「はぐるま工房」のものを使用。また、台紙の葉書については、川崎区川中島の「ゆずりは園」で作成。このように「川崎宿麦わら細工」は、川崎市内のネットワークによって支えられている。
- 麦わら細工で使う材料の麦は、本来は捨ててしまう部分を有効利用している。また、麦は芭蕉の句碑保存会が育てた麦も使用している。ストロー状の麦をリボン状にする仕上げ作業は、川崎区日進町の地域作業所「むぎの穂」が行っている。

### 関連シート

- (1-1) 川崎宿
- (4-3) 芭蕉の句碑